３）電子ポートフォリオの活用について

ポートフォリオの教育的意義について：

1.授業前に目標を設定し、授業後にふりかえりを行う習慣をつけさせることで、自己評価と能動学習ができる学生を育成する。

2.「超高齢社会に対応できる歯科医師」になるという目的に対して、Step1（3年生）、Step2（4年生）、Step3（5年生）で3年間にわたり学修を行うが、最終的な目標に向かって、学んだ事を常に活かしていくためにポートフォリオを活用する。

3.特に臨床において学ぶ際に、態度や技能も含む到達度の自己評価能力を養成する。

対象となる実習

北海道医療大学

- 学外実習（高齢者治療を中心として）
- 高齢者実習は学外実習、訪問診療が中心となっている。

岩手医科大学

- 看護介護体験実習（1年時）
- 歯科専門体験実習（2年時）
- 地域医療体験実習（5年時）。

昭和大学

- 口腔外科・麻酔の臨床実習（WG2）→チェック式（iPad）
- 高齢者歯科臨床実習（WG1）→チェック式（iPad）
- チーム医療臨床実習（病院歯科実習＋歯科訪問診療実習）　（WG3，4）→記述式（紙に記載）

- 病院歯科ではiPadが利用できない。

フィードバック教員

北海道医療大学

- 咬合再建補綴学分野
- 臨床教育管理運営分野

- 咬合再建補綴学分野が主として高齢者歯科を分担。
- 臨床教育管理運営分野が臨床実習を管理運営。

岩手医科大学

- 看護介護体験実習（1年時）
- 歯科専門体験実習（2年時）
- 地域医療体験実習（5年時）の各担当教員。

昭和大学

ローテーション型の実習のため、下記の教員が担当する。

- 口腔外科・麻酔の臨床実習
- 高齢者歯科臨床実習
- チーム医療臨床実習（病院歯科実習＋歯科訪問診療実習）

北海道医療大学

コース：口腔医学とチーム医療

臨床実習報告書

番号 ■■■■　　氏名 ■■■■

1．症例の概要（年齢、性別、主訴、基礎疾患、服薬状況・・・・・） ８２歳、女性、認知症
2．情報の収集に際して留意したこと カルテだけでなくレントゲン写真を良く観察する。患者さんの前でカルテをメモしない。
3．実施した診療について 口腔清掃、義歯調整
4．診療を実施するに際して留意したこと 認知症が重度だったため、口腔内の清掃が必要なことを伝えても中々口を開けてくれなかった。いやがる患者さんに、何度も説明をして治療に協力してもらうことがまず大変だった。また、口腔清掃状態もとても悪く、施設での認知症など自分で口腔清掃を充分に出来ない患者の口腔清掃の限界を感じた。訪問などで歯科医師が定期的に診療を行うことの重要性を強く感じた。

北海道医療大学

コース：口腔医学とチーム医療

臨床実習報告書

番号■■■■　　氏名　■■■■

1．症例の概要（年齢、性別、主訴、基礎疾患、服薬状況・・・・・） 義歯が合わない
2．情報の収集に際して留意したこと どの部位が痛いか　全身既往歴などを重点的に聞いた
3．実施した診療について 触診　打診　口腔内診査
4．診療を実施するに際して留意したこと 患者の既往歴など、背景にどんな疾患があるか注意した

岩手医科大学

地域医療体験実習（5 年）

実習報告書

■■■病院　　（平成 27 年　9 月 30 日、10 月 1 日　）　　No.■■　　氏名 ■■■■
この実習における「自分の目標」 ・基本的な診療の介助ができるようになりたい。 ・歯科のみの単科の病院ではなく、総合病院の中の歯科口腔外科ということで、医科との連携が強いのではないかと思うが、具体的にどのように連携体制を取っているのか。 ・地域医療の中核を担う病院であると伺っているが、地域特有の問題や課題はあるか。 ・歯科口腔外科ということで、可能であれば、全身麻酔下での手術等を見学させていただきたい。 ・残りの学生生活(あと 1 年半)の間に、私たちがやっておくこと、学んでおくべきこと、身につけておくべきことがあればぜひお伺いしたい。
実習で学んだ内容 1 日目　・歯科治療の介助(CR 充填) ・ダウン症の患者さんのブラッシング、メタルインレー装着の見学 2 日目　・障害を持つ患者さんの全身麻酔下での歯科治療の見学 主に全身麻酔についての説明を受け、見学 ・歯科治療の介助(難抜歯)
目標の内達成できたもの(実習を通して学んだもの) ・地域医療の中核を担う病院であると伺っているが、地域特有の問題や課題はあるか。 →問題や課題ではないが、地域の二次医療を担っているという病院の特色を感じた。全身麻酔下での歯科診療などの高度医療の提供や機能回復等がメインであり、審美性の回復等は一次医療圏である一般開業医に任せるということだった。 ・歯科口腔外科ということで、可能であれば、全身麻酔下での手術等を見学させていただきたい。 →全身麻酔の基本的知識についてムントや説明を受けながら見学させていただいた。 ・残りの学生生活(あと 1 年半)の間に、私たちがやっておくこと、学んでおくべきこと、身につけておくべきことがあればぜひお伺いしたい。 →先生方の歯科治療に対する姿勢や考え方、歯科医師の経歴等を伺うことができ、自分の将来の歯科医師としてのビジョンを考えることができた。
改善すべきと考えること ・基本的な診療の介助ができるようになりたい。 →診療の介助をさせていただいた。先生が今行っている治療の先の動きを読んで動くことができなかったので、今後の臨床実習ではその点を意識して行動できるようにしたい。また、特に初日は、自ら進んで先生方の介助に入ることができなかった。たった 2 日間、せっかく実習させていただいたのに、積極性に欠けていたと思う。実習させていただく機会をチャンスと捉え、積極的に学ぶ姿勢を持ちたいと思う。 ・歯科のみの単科の病院ではなく、総合病院の中の歯科口腔外科ということで、医科との連携が強いのではないかと思うが、具体的にどのように連携体制を取っているのか。

岩手医科大学

→岩手医大と異なり、歯科と医科が同じ建物内にあり、医科をより身近に感じた。入院患者さんが歯科受診をする姿も見受けられた。また、車椅子に座ったまま受診できる歯科ユニットもあった。ただ、医科との連携に関して先生方に対して自らお伺いすることができなかった。こちらも積極性に欠けていた点であると思う。

・歯科麻酔、特に全身麻酔に関する知識があやふやで、ちゃんと定着していないことを反省した。元々苦手意識が強い科目ではあったが、このように実習で実際に全身麻酔を見ることができてイメージが湧いたので、自分でしっかり復習を行い、知識の定着を図りたい。

実習が終わった時点での気持ち・感想

初めて秋田県で、そして総合病院にて実習をさせていただき、普段実習している岩手医大とは異なることも多く非常に新鮮だった。岩手医大と違って同じ建物内に医科と歯科があるため、総合医療の中の歯科ということを意識した。

臨床実習も進み、卒業まであと１年半ということで、最近は、将来どんな歯科医師になりたいか、どこで研修をするか、専門的に学ぶか、学ぶとしたら何を専攻するか等、将来について考えることが多い。そんな中、雄勝中央病院の先生方にご自身の歯科医師としての経歴・体験についてお話していただき、自分の将来の方向性を考える参考にさせていただいた。もっとお話を伺いたかったが、時間が足りないくらいだった。

岩手医大の臨床実習での保存科配属の時、私が患者さんをお呼びしようと待合室に向かったところ、患者さんの容態が悪く、麻酔科まで運んだことがあった。その患者さんは低血糖を起こしており、麻酔科の先生方の適切な処置によりその後容態は安定した。その体験から、将来開業医として働く際に、全身疾患を持つ患者さんの容態が急変したとき対応出来るようになっておきたいと思った。今回、雄勝中央病院にて麻酔科や口腔外科の先生方とご一緒して、その気持ちがより一層強くなった。

２日間、内容が濃く大変充実した実習でした。鍋島先生、三浦先生、鎌田先生、スタッフの皆様方、お忙しい中丁寧にご指導いただきましてどうもありがとうございました。

成長したことベスト３

１．歯科診療や診療介助に対して自分に足りないところや学ぶべきところ努力すべきところを認識できた。
２．障害者歯科、全身麻酔に対する知識を復習できた。
３．自分の将来の歯科医師像を具体的に考えることができた。

今回の実習で得たことを今後どう活かすか

臨床実習は残り約半年、歯学部の学生としてはあと１年半と卒業が近づいてきた。臨床実習にも慣れてきて、いい意味でも悪い意味でも余裕が出てきた頃だと思う。今回の地域医療実習においても、自分の積極性が欠けていたことを反省した。ここで今一度気を引き締めて、一回一回の歯科診療・介助・見学を学ぶチャンス、成長のチャンスと捉えて積極的に実習を行いたい。

また、今回雄勝中央病院の先生方にお伺いしたように、今後自分の歯科医師としての方向性を考えるために、他の先生方からも歯科医師の経歴や歯科に対する考え方等をお伺いしたいと思う。

岩手医科大学

地域医療体験実習（5 年）

実習報告書

■■診療所　　（平成 27 年　9 月 17 日　）　　No.■■　　氏名 ■■■■
この実習における「自分の目標」 ・その施設の地域における役割を理解する。 ・他の病院、診療所、介護施設等とどのような連携を取って歯科医療を行っているのかを理解する。 ・地域の高齢者に対して、歯科的にどのようなトータルケアを行っているのかを理解する。 ・国民健康保険　歯科診療所ということで、一般の開業歯科医との相違点を発見・理解する。
実習で学んだ内容 ・その地域における歯科診療所の役割 ・来院される患者さんの年齢層、主訴 ・医科診療科との連携 ・通常診療の他に、在宅診療や学校歯科検診について ・開業歯科医院との役割の違い ・グローブの使用、滅菌についての考えかた
目標の内達成できたもの(実習を通して学んだもの) ・その施設の地域における役割を理解する。 ・他の病院、診療所、介護施設等とどのような連携を取って歯科医療を行っているのかを理解する。 ・地域の高齢者に対して、歯科的にどのようなトータルケアを行っているのかを理解する。 ・一般の開業歯科医院との相違点を発見・理解する。
改善すべきと考えること ・患者さん一人一人の治療内容をもっと詳しく見学させて頂けばよかった。
実習が終わった時点での気持ち・感想 実習前の予想通り、患者さんはやはり高齢の方が多く、また診療内容としてはデンチャー系が多かったように感じる。多岐に渡ってわかりやすく丁寧に指導して頂いたスキー部 OB の高橋先生に厚く御礼申し上げます。

岩手医科大学

成長したことベスト３ １．高齢者医療についての理解が深まった。 ２．その診療所の役割、必要性を理解できた。 ３．医科との連携の必要性を理解できた。
今回の実習で得たことを今後どう活かすか 今後さらに高齢化が進むことを考えると、高齢者（有病者）に対する歯科的アプローチについて勉強することは必須だと思われるため、通常の臨床科目はもちろんだが、全身管理についても勉強していきたいと思っている。

昭和大学

Significant Event Analysis（SEA）（有意事象分析）

意義深いイベントに遭遇した際に、系統的に振り返りを行う事で今後の改善につなげていく方法である。以下に記載例を示す。

① 意義深いイベントの描写（何が起こったのか）:

例：車椅子の患者さんをユニットへ移乗させる際に転倒させそうになった。

② その出来事は自分にとってなぜ意義深いのか、どういう意味があるのか

例：これから車椅子の患者さんの介助をする機会は多いので、安全に実施できるようになることは大変重要だと思った。

③ なぜその出来事が生じてしまったのか

例：車椅子から患者さんを移乗させる経験はあり、今まで特に問題が無かったため、油断をしていた。今回の患者さんは難聴があり、かけ声をかけたが良く聞こえなかったと思う。そのため、移乗の際にタイミングがあわず、患者さんが転倒しそうになった。

④ A:その出来事の中で、自分なりにうまく対処できたこと

例：車椅子からユニットへの移乗の際の手順はできていたため、大事には至らなかった。

B:うまく対処できなかったこと

例：患者さんと息を合わせることがうまくできていなかった。

⑤ そのときの自分の気持ち・感情

例：患者さんに怪我をさせそうになり、冷や汗をかいた。ユニットに移乗させた後の治療に気をとられており、また患者さんが難聴であることを十分意識していなかった事を強く反省した。

⑥ どのように対処すれば良かったのか

例：難聴などコミュニケーションに障害がある場合、特にジェスチャーなどで意思疎通を図ることが重要だと思った。

⑦ この出来事を体験して導かれた自分への教訓、次への行動指針

例：患者さんと意思疎通ができていないと大きなトラブルにつながる事を今回実感できたので、これから慎重に意思疎通をはかるようにしたい。

昭和大学

Significant Event Analysis（SEA）

実習施設名：　　記載日：　　年　　月　　日

学生番号　：　　氏名：

① 意義深いイベントの描写（何が起こったのか）:	
②その出来事は自分にとってなぜ意義深いのか、どういう意味があるのか	
③なぜその出来事が生じてしまったのか	
④その出来事の中で、自分なりに A:うまく対処できたこと B:うまく対処できなかったこと	
⑤その時の自分の気持ち・感情	
⑥どのように対処すれば良かったのか	